

東北食農連携ネット

“FACNeT”

東北ハイテク研究会

No. 5 (2017. 6)



東北食農連携ネット“FACNeT”第5号をお届けします。

第5号では、JATAFF ジャーナル (Vol.5・No.5 平成 29 年5月発行) に掲載されました東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 農林水産省産学連携コーディネータである荒川市郎氏〈地域だより〉を掲載します。また、荒川さんの論考と関連します乾田直播、直播適性水稻品種に関する農研機構・東北農業研究センターの成果を示しておきました。詳しい内容を知りたい方は、東北農業研究センターホームページ (<http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/>) を参照ください。

水稲直播に関する東北農業研究センターの研究成果



論考 〈地域だより〉 被災地復興と技術支援 荒川市郎

被災地復興と技術支援

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故から6年が経過した。福島県産の農産物は、事故直後、一部の地域で出荷制限等の措置がとられたが、現在では生産者を始め関係者の努力により制限が解除されている。水稻の作付け再開に向けた取り組みを例に、復興に向けた新しい生産技術の導入や地域における課題、技術移転の視点について紹介する。

福島県の太平洋岸北部を例にとると、震災以前から稲作を中心とした土地利用型農業が営まれていたが、震災および原発事故により作付けができなくなり、水田は雑草に覆われてしまった。しかし、被災農地や排水路等の設備が復旧し、試験研究の成果を元に、放射性物質の分布状況に合わせて除染や吸収抑制対策を実施することによって、作付けが可能になった。一方、地域の担い手農家の数は震災前より減少するなか、水稻の栽培を委託する農家は急増し、地域農業の担い手確保が急務となった。担い手確保の手段として大規模な土地利用型農業を担う農業生産法人を立ち上げ、大型機械や施設の整備を集中して新たな生産方式に取り組む動きが始まった。これらの組織に採用された栽培技術の一つに水稻湛水直播栽培がある。

担い手が直播栽培に注目する理由は、第一に省力性である。地域の稲作を支えてきた育苗センターは、施設が被災したり、センターで働く人材不足から、苗の供給が不十分な状況にある。このような状況下において、育苗作業がない直播栽培は、作付け再開のキーテクノロジーとなっている。どの直播栽培を採用するかは、一般に土壌や気象など自然条件によって変わるが、担い手にとっては、これ以上に営農形態に関する影響が大きいと考えられる。

鉄コーティング直播は、コーティング作業の適期幅が広いことや外部委託（コーティング種子の購入）が可能なことなど、少ない人数で大面積をこなす経営にとって、春作業の競合など作業期間の制約要因を減らせる技術として普及している。また、鉄コーティング関連の作業機が整備され、技術マニュアルや資材の供給な

ど、一貫した情報提供がなされることも担い手にとって歓迎される要因である。

筆者は、25年前、この地域における直播栽培の普及・定着に向けて、研究開発・技術の現地実証・普及拡大の一翼を担ったことがある。当時の研究や技術実証では、水稻の収量や品質が気になり、担当者である筆者は直播栽培を取り入れた経営体のイメージが見えない試験をしていた。ところが、当時の原町市役所は、各集落内での話し合いを促し、集落の営農ビジョンを構築する事業を進めていた。また、農業改良普及所も地元の機械利用組合による大型機械化体系、乾田直播による担い手育成を目指していた。このビジョンを踏まえ大区画圃場の整備や地下かんがいのインフラ整備と新たな栽培技術の導入が図られ、担い手への農地の集積機械利用組合の法人化を経て、震災後もこの地域に残っている。鉄コーティング直播と乾田直播は、栽培技術上異なるものにとられがちであるが、春作業の分散化の点では共通するものがある。

新たな担い手を中心とした地域農業を復興するには、慣行技術の延長では困難な場合が多く、新しいキーテクの導入が求められる。担い手やそれを支援する普及所や関係者が、技術メニューを取捨選択する際、判断基準となる情報がたくさんあることが望ましい。さらに、個別技術の開発者は、その技術を使うとどのような営農ができるのか、最もメリットが出るのは、どんな経営か、逆にメリットが出るようにするには、担い手側が具備すべき条件をアピールすべきと思う。また、現地実証試験は、これらの情報を関係者と意見交換し、検証する場として重要である。しかし、この作業を開発者にだけ求めるのは難しく、これらを整理・再構築するのもコーディネーターの役割と思う。今後も、開発者とユーザーの技術コミュニケーションの縁を取り持つ通訳として活動していきたい。

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 農林水産省産学連携支援コーディネーター

荒川 市郎（あらかわ いちろう）